

令和7年度開催を踏まえた課題について

1 概要

本資料は、令和7年度千年未来工芸祭の来場者・出展者等のアンケート結果を基に、令和8年度の運営改善に資する主要課題を整理したものである。

2 調査対象者

令和7年度における来場者、出展者、若手職人応援チャレンジ参加の若手職人を主な対象者としている。

＜アンケート回答件数＞	来場者	：313件（来場者数2日間で14,500人）
	出展者	：175件（出展数198）
	若手職人	：13件（参加者14名）

3 アンケート結果からみる課題

（1）会場環境（暑熱、照度）

- ・越前市アイシンスポーツアリーナ（以下、「アリーナ内」という。）内の暑熱環境に対する指摘や改善要望が多かった。なお、会場の温度管理は施設側の一括管理であり、利用上限の範囲内での運用にとどまっている。
- ・アリーナ内が想定よりも暗く、作品や商品、足元が見えにくいといった意見が多かった。
- ・安全性（転倒等の未然防止）、滞在時間、購買意欲向上に直結する課題である。

（2）会場内導線、案内サイン

- ・会場レイアウト、アリーナ内の出入口、導線の分かりにくさに関する指摘が来場者、出展者双方から多かった。
- ・会場間（メインアリーナ、サブアリーナ、まさかりどんの館）の回遊性向上のため、ブースレイアウトやゾーニング、分かりやすく見やすい案内サイン、会場マップの設置、誘導スタッフ等の配置計画を見直す必要がある。

（3）休憩スペースの不足

- ・特にアリーナ内のベンチ、椅子等の休憩スペースが不足しているという指摘が多かった。
- ・高齢者や子ども連れの来場者にも配慮した休憩箇所の計画、混雑緩和のための分散配置の検討が必要である。

（4）飲食・屋内休憩エリアの認知不足

- ・令和7年度に「まさかりどんの館」に設置した、加工食品ブース、屋内休憩エリアの所在が分かりにくいという指摘があった。

- ・熱中症対策としても重要であるため、会場マップや案内サイン、SNS等での案内強化により認知を高める必要がある。なお、屋内休憩エリアの有効性は、アンケート結果から確認できる。

(5) 出展者への支援（什器情報、識別パス等）

- ・自店に割り振られる什器サイズや仕様について、事前連絡を希望する声があった。
- ・出展者と来場者との識別が難しいとの意見があった。

(6) 若手職人応援チャレンジブースのバックヤードの設置とレイアウト配置

- ・令和7年度の若手職人応援チャレンジのブースにはバックヤードがなく、荷物置き場に困ったという意見が多かった。
- ・参加者全員が入れ替えせずとも良い、通路に面する形の配置の希望が多く寄せられた。
- ・若手職人の販売活動のしやすさ、荷物置き場の確保、来場者からの視認性向上のため、レイアウトの配置検討が必要である。

(7) 広報の開始時期

- ・告知・広報のタイミングが遅いのではないかという指摘があった。
- ・県外来場者の拡大や出展者による集客のため、段階的・計画的な発信を実施する必要がある。

(8) 企画混在による混乱

- ・令和7年度の若手職人応援チャレンジと「閃」との共同展示については、スペースも狭く、来場者にもわかりにくかったとの指摘があった。
- ・他企画と併せてレイアウトする場合は、導線や目的を明確に分け、来場者の認知負荷を低減する必要がある。

4 アンケート結果以外の課題

(1) 会場アクセスとキャパシティ

- ・駐車場や会場のキャパシティには限界があり、来場者数の増加に伴い駐車スペースの確保や渋滞対策が必要である。
- ・来場者の多くは自家用車を利用しており、公共交通の利用は低いことから、駐車場確保や渋滞対策については引き続き検討する必要がある。
- ・出展者用駐車場として多目的グラウンドを充てたが、開場前の出展者来場時に駐車場整理が無かった時間帯があり、混雑が発生したため、来場者だけでなく出展者のアクセスにも対応が必要。

(2) PRと来場者層の拡大

- ・来場者の大半は県内であり、市外・県外への認知度向上が課題である。
- ・SNSや口コミによる認知は高まっているが、さらなる広報戦略が求められる。

(3) 市内伝統工芸事業者の売上向上

- ・出展者全体の売上は増加傾向にあるものの、市内伝統工芸事業者の売上は依然として低く、県外事業者やキッチンカーが売上を押し上げている現状がある。
- ・市内伝統工芸事業者への来場者誘導や販路拡大に向けた仕組みづくりが必要である。